

ヘルスマーター

バセドウ病について

バセドウ病とは

甲状腺は、のどぼとけの下にある蝶のような形をした臓器で、その役割として、甲状腺ホルモンを生成します。甲状腺ホルモンは、全身の臓器に作用して代謝をつかさどるなど、大切な働きを持つホルモンです。

バセドウ病は、この甲状腺ホルモンを過剰に産生する病気(甲状腺機能亢進症)の代表です。

バセドウ病は自己免疫疾患のひとつです。下垂体から分泌される甲状腺刺激ホルモンが、甲状腺ろ胞細胞のTSH受容体を刺激することによって甲状腺ホルモンは分泌されますが、バセドウ病は、このTSH受容体に対する抗体が体内で作られてTSH受容体を刺激し続け、甲状腺ホルモンが過剰に産生・分泌されることで起こる病気です。

甲状腺ホルモンや、カテコールアミンが過剰になるため、その症状は、^{どうき}動悸、体重減少、指の震え、暑がり、汗かき、疲れやすい、軟便・下痢、筋力低下、精神的なイライラや落ち着きのなさ等が挙げられます。女性では生理が止まり、男性では周期性四肢麻痺があり、甲状腺は腫大し眼球突出することもあります。

治療方法について

薬物療法

多くの場合に第一選択となります。

放射性ヨウ素内用療法

安全で効果が確実であり、甲状腺の腫れも小さくなります。

甲状腺摘除術

最も早く確実に治療効果が得られます。

バセドウ病は、未治療の場合、長期的に心房細動や心不全、^{ぜいじゃく}脆弱性骨折等が生じるリスクが高いため、上記のいずれかの治療が必要です。